

2022 年度第 1 回 N P O 法人共同保存図書館・多摩理事会

- 1 日 時：2022 年 4 月 12 日（火） 午後 7 時 30 分から午後 9 時 30 分
- 2 方 法：ZOOM アプリを媒介にしての遠隔会議
- 3 議決権のある理事：9 名
出席者：座間直壯、清田義昭、齊藤誠一、田中ヒロ、手嶋孝典、中川恭一、保坂一房、堀 渡、
堀越洋一郎
欠席者：
事務局員の参加者：雨谷

(1) 第 1 号議案 会員の動向について【報告】

- ・2022 年 4 月 1 日現在
正会員 79 名 2 団体 賛助会員 35 名 1 団体、計 114 名 3 団体（合計 117 名・団体）
（昨年度中に申し出があり、4 月 1 日付けで正会員 1 名、賛助会員 1 名が退会）

(2) 第 2 号議案 第 2 回多摩デポ実践講座の結果について【報告・討議】

- ・3 月 8 日（火）に ZOOM による第 2 回多摩デポ実践講座「どうして、あれが検索でヒットしないの？—その 2—」を開催した。
- ・前回の理事会は 3 月 2 日。講座の開催直前で、参加募集中の段階での報告だった。講座を開催しどうだったかを報告し、討議した。
- ・実践講座は「多摩地域の現役職員を啓発し繋がりを作る」ことを目指し、総会で提案し 2021 年度から始めた企画。まず、蔵書検索における疑問を、検索する側とシステムを構築する側の両面から解き明かそうと、「どうして、あれが検索でヒットしないの？」と題し、12 月 7 日に第 1 回を開催し、多摩地域の 21 名の現役職員が参加した。その後の経過や会員からの要望もあって、第 2 回は（多摩地域の現役職員だけでなく）広く会員全体に、また日本図書館協会のメールマガジンにも情報を流し、登録する日本全国の方にも、募集を広げて行った。
- ・23 人からの応募があり、参加する URL を送ったが、当日の実際の参加者は 16 人とどまった。現役職員 10 人、元職員 3 名、利用者・市民（及び所属不明）3 名。そのうち多摩デポの会員は 6 名、多摩地域の現役職員は 7 名だった。
- ・多様な立場や地域の方が参加したが、あまり大勢にはならなかった。また応募したが当日は参加しない方がかなりの割合であった。参加者に求めたアンケートは 10 人からの回答で、回収率は高くはなかった。
- ・1 時間の講座、その後続けて自由参加の 30 分間の交流会という構成。全体の司会、課題紹介・解説者、コメンテーター、交流会の取り回し役の動き、アンケートの送信、回収など、運営は全般にこなれてきたと考える。構成はこれで続けられればいいのではないか。
- ・参加した方の反応は良かったと思われるが、もともと職員に向けた企画としては、今回はやや焦点がぼけ、対象者を広げた割に参加は多くなく、次回につながりにくい結果となった。
- ・時には、今回のような参加対象者をしぼらない、会員や非会員でも可として、実践講座で目指していることを紹介する講座もあってよいが、今後は、多摩デポ実践講座としては多摩地域の現役職員を対象としてしばらく続けた方がよいだろう。対象者を多摩地域の職員に絞って、毎

回のように参加してくれる方、研究活動の協力者となる方を発掘してみよう。

(3) 第3号議案 (株)カーリルとの共同研究について【報告・討議】

- ・この間、たましん歴史資料室の蔵書のうち、ISBNが付与されている出版物だが目録データにISBNが記入されていなかった資料にISBNを機械的に附番することを実験し、その精度を検証しながら、その先に、ISBNが記入されていない他館の古い蔵書データへの附番の可能性、さらにISBNが元々、付与されていない郷土資料などの同定識別の可能性などを検討してきた。
- ・これは、本日の第6号議案で扱う「2022年度総会議案書」の2021年度事業報告で書いた。
- ・たましん歴史資料室の既存の蔵書データに十分な精度があるISBNデータが付与できたことと、今後（ISBNが付いた図書を受け入れる時は）蔵書データにISBNを入れていくことになったので、たましん歴史資料室の蔵書データをTAMALASの検索対象に加えることになった。
- ・このISBNの機械的な附番とその検証のことは報告論文を執筆し、雑誌に掲載を依頼することになっており、分担執筆の途中である。
- ・また定例会では、昨年度は、府中市の大量のTAMALAS一括処理システムへの対応などを行ってきた。それが第3回多摩デポ実践講座の企画に生きている。

(4) 第4号議案 第3回多摩デポ実践講座の開催について【報告・討議】

- ・前回の理事会で予定を伝えた企画が、時期が少し遅れたが開催できる見通しになった。
- ・事務局から示された「第3回多摩デポ実践講座」チラシ案を見ながら議論した。
- ・TAMALAS一括処理システムを活用した大掛かりな閉架書庫（自動化書庫）の点検を実施中の府中市立中央図書館の担当者からの事例報告と、このシステムを作った(株)カーリル吉本氏のコメント、司会は多摩デポの中川理事という約50分間の職員研修ビデオは、「除籍におけるTAMALAS一括処理システムの活用について」と題して、図書館長協議会の図書館サービス研究会から、多摩地域の全図書館へ3月10日から3月一杯の期間で配信された。多摩デポ会員には、会員のMLで3月19日に紹介して、期間内での視聴を促した。
- ・これは図書館サービス研究会と多摩デポの共催で作った。多摩地域の各図書館は、視聴後にアンケートに答え、それは回収されて多摩デポにも提供されることになっている。
- ・このTAMALAS一括処理システムの活用事例と研修ビデオの視聴を踏まえて、TAMALASの普及と除籍時の希少な蔵書の点検のノウハウを扱う実践講座を行いたい。
- ・「除籍作業にはTAMALAS一括処理システムを使おう！」と題する第3回多摩デポ実践講座。募集対象は多摩地域の図書館職員としたい。
- ・出演者の都合を確認中だが、可能なら連休後5月10日（火）の夜にZOOMで開催ということで、日程が決まり次第、多摩地域の図書館にチラシを配って募集を開始したい。
- ・理事、事務局員は都合のつく方は参加する。会員には、講座内容は後日の報告となる。
- ・第6号議案の「2022年度総会議案書」の2022年度事業計画にも書いてあるが、この講座自体は総会開催前に実施となる。

(5) 第5号議案 2022年度通常総会の開催方法と企画について【報告・討議】

- ・前回の理事会で議論した考え方を元にした事務局からの案が示され、討議した。

- ・コロナ感染症の流行は収まっていない。
- ・その中で総会の開催となるので、総会成立と会員の意見集約による方針決定は、過去2回と同様に会員の書面表決での意志表明を促して、成立できるように図る。
- ・総会を開く会場は、Wifiの使える施設を借り、総会の様子はZOOMで会員に見られるようにする。また状況が許せば、意志があれば会場に来てもらえるようにする。(出席予定者も念のため事前に表決票を提出する)
- ・総会は、5月28日(土)午後2時～3時 調布市たづくり(京王線調布駅近く)
- ・ZOOMによる会員の意見交換会を、総会議案書と書面表決票を会員に送って届いた後、書面表決票を会員が提出する前の時期=提出締切前の5月連休明けの頃に行う。
 - ・最初に理事側から議案書全体と4つの議案の説明、一年間の見通しを説明し、質問も受ける。「コロナ禍の読書と図書館の不自由、改善されてきたこと、コロナ禍で見えてきた読書と図書館の意味。会員の近況紹介」などを自由に語り合う。
- ・総会記念の講演を録画して用意し、一定期間、配信する。会員には、事前送付の資料に案内・予告を入れる。これは会員以外にも見られるようにする。
- ・企画は、保坂一房理事に、たましん歴史資料室の最近の活動をZOOMで理事に話してもらい、その質疑を録画する。編集して、歴史資料室の所蔵資料の画像やデジタルアーカイブを紹介してもらう。
- ・保坂氏理事としては準備に時間をかけたいので、総会日からではなく後日配信ということで理事会は了承した。この講演が次のブックレットの材料になるかどうかは、別に検討する。

(6) 第6号議案 2022年度通常総会にかかる議案の内容について【報告・討議】

- ・事前に事務局から示された「2022年度通常総会議案書案」を見ながら討議する予定だったが、時間切れのため、4月19日に次回の理事会を開催し、討議することになった。

(7) 情報交換・事務局からは特になし

【多摩デポ関係記事】

- ・時になし

【共同保存図書館関連論文】

- ・特になし

【今後の予定】

- ★ カーリルとの共同研究 4月29日(金)、Zoomを使って
- ★ 事務局会議(2022年度第2回) 月 日()
- ★ 次回理事会 第2回理事会 4月19日(火)

5 議事録署名人の選任

議事録署名人として2名を選任することを諮り、斎藤誠一理事、田中理事を選任することを全員異議なく承認した。

以上、この議事録が正確であることを証します。

2022年4月12日

議長

議事録署名人